

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和3年 8月 12日

事業所名：多機能型事業所 つむぎ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	車いすなどを、おいても活動できる広さが十分ある。訓練台も適度な広さ高さに改造し、訓練したり、生活しやすい、環境を整えた。	全員が「はい」と回答された。「明るくて、広くて、過ごしやすいと思う」という意見が多かった。	今後も子どもが安心して過ごし、より自分の力を発揮できるように工夫を重ね、より良い環境を整えていく。
	2 職員の適切な配置	看護師と保育士、児童指導員とほとんど1対1で、対応している。PT,OTも回数は少ないが、勤務していて、質的向上に努めている。	全員が「はい」と回答された。「看護師も、保育士、児童指導員も経験があり、安心だ」という意見をいただいている。	一人一人にしっかり関わられるように、体制を整えていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	子どもが楽な姿勢や、見たり触ったりしやすい姿勢がとりやすいように介助している。また、実物や、絵カード写真を利用して、分かりやすく伝えるようにしている。	9割の方が「はい」と回答された。「子どもが楽しんでいるのが分かる」という意見が多い。環境設備については、「タブレットなどもっと使ってほしい」との意見も頂いている。	一人一人の子どもにとって分かりやすい情報伝達の仕方や、環境を整えていく。そのために、職員の資質向上のため研修を重ねる。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	空調、湿度管理も含めて、楽に過ごせるように姿勢管理に努めている。また、毎日の清掃、消毒で、清潔な環境を心がけている。	全員の方が確保できていると評価された。	引き続き、コロナ対策を含めて生活空間の衛生管理を徹底する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	つむぎ会議で、毎月現状の確認と課題を上げて、方針を出し、実施できているか確認している。	/	会議などで、目標や課題を確認し、職員間で共有し、課題に対しては、粘り強く取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第3者評価は未実施	/	開設1年なので、今後、適期に第3者評価を受けていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修計画に基づいていて実施している。一人一人の資質を向上させる研修と共に、事業所としての資の向上のための研修に取り組む。	/	研修計画を見直しながら、職場内外の研修を進めていく。職員の資質を向上させていき、より良い支援につなげたい。
適切	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	定期的に懇談を行い、保護者のニーズを把握すると共に、子どものニーズに基づいて支援計画を立てるための会議を設けている。	/	アセスメントをしっかり行い、子どものニーズを受け止めていけるように、研鑽していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
な支援の提供	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	全員の方が「はい」と回答された。今取り組んで欲しい課題を、「いっしょにに取り組んでくれるのがうれしい。」という意見をいただいている。	子どもを理解し、個別活動と、友達と触れ合う集団活動をともに楽しめるような計画を作成していく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載		あいまいな記載にならないように、具体的に提案できるようにしていく。
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	全員の方が「はい」と回答した。「子どもがプログラムに興味を示し、反応が良くなっている。」「とても落ち着いて参加する」という意見をいただいた。	支援計画を、保護者と確認し、目標の達成状況や、支援の方法などモニタリングで確認して、より良い支援につなげていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	「季節に応じたプログラムになっていて、色々な体験をし、本人はとても喜んでいる。」「いい表情で帰ってきて、帰ってきても生き生きしている」など、活動プログラムについても、固定化しない工夫の実施についても全員の方が「はい」と回答している。	理学療法士や、作業療法士のアドバイスを活かして、職員間で協力しながら、子供に応じた活動が提供できるように取り組む。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援		長期休暇中、困りごと、相談事に丁寧に応じる。必要であれば、相談支援事業所や、他機関と連携を取り、できる限り支援を行う。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施		一人一人の子どもにとっての好きな遊びができるように取り組みながら、子供が主体的に取り組めるように工夫する。季節感が感じられる遊びや、わらべ歌、ミュージックケアなどを取り入れてみんなで楽しむ。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底		朝礼で活動の予定と役割を確認し、子どもの連絡ノートの情報も職員全員で確認する。また、週単位の保育や、月単位の活動について打ち合わせを行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終礼での振り返りにおいて、支援内容について確認し、気づいた点を話し合い、記録している。	終礼で振り返りを行い、一日の工夫点や課題を話し合い、職員間で共有する。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の記録に関しては、可能な限り子どもの姿を正確にかつ変化が分かるように記録している。また、一人一人のケース会議を行い、支援の検証を行っている。	子どもの小さな変化や成長が見られるような、ていねいな記録が書けるように努力する。そして、記録が適切な支援に繋がっていくように、目標に対する取り組みを意識して書けるようにスキルアップを目指す。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	職員全員で支援計画を見直し、達成した課題、継続の課題、新しい課題など確認した上で、保護者と話し合い、目標を確認をしたうえで、具体的な計画を立てている。	定期的にモニタリングを行い、子どもの発達をしっかりとらえて、柔軟に目標を見直し、支援が行えるように努める。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	サービス担当者会議には必ず参加して、子どもの状況など情報共有している。	今後とも、連携会議には必ず参加していき他機関と連携していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	子どもが支援を受けている各機関と連携を図り、親子が安心して利用できるように努める。	子どもの健康、安全を守り、支援が行えるように、子どもが支援を受けている各機関と連携を図っていく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	緊急時の主治医からの意見書で確認している。必要に応じて、保護者を通じて、連携をとれるようにしている。PTの姿勢管理など、継続の必要な斧や、保護者の依頼があれば記録、DVDで連携している	今後とも、協力医療機関と連携を取り、子どもの、健康と安全を守っていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	学校との支援内容の十分な情報共有はあまりできていない。連携会議がある時に、情報共有ができる程度である。	親子ともども安心してつむぎの生活が開始できるよう、学校との情報共有を目指していく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	まだ卒業生はいないが、円滑な移行のため、支援内容等の情報提供はしっかり行うつもりである。	円滑な移行の為に、支援内容等の情報提供はしっかり行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	今年度、総合福祉通園センター・ルネス花北に見学と研修を実施していただいた。また、理学療法士の講演や、ZOOMでの研修を受けている。職員全員で、資質向上に努めたい。		今後も、職員の資質向上を図るため、研修に取り組み、よりよい支援ができるため研鑽を積んでいく
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	全くできていないので、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたなら、実施を試みたいと考えている。	ほとんどの方が、分からないと回答された。現在のコロナでの状況では難しいと思われるのか、健常児との交流を希望されているかの記載がないのでわからない。	今後、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を把握しながら、検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	今年度は、新型コロナウイルス感染リスクを回避するため、行事自体ができていない。ボランティアは少し受け入れてきた。		ボランティアや実習生など受け入れていきたい。外からの意見を聞く機会にしていきたい。
保護者への説	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約の前に、見学をしていただき、丁寧に説明をしている。また、契約時に、重要事項説明を行い、契約を結べるようにしている。	全員の方が「はい」と回答された。「疑問におもったことも丁寧に説明してもらった」という意見をいただいた。	今後も、制度や支援内容など丁寧に説明し、書面でお伝えする。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援内容について、分かりやすく説明をしている。子どもの今の大事な課題について、共に確認できるようにしている。	全員の方が「はい」と回答された。	今後も、子どもの現状や願い、支援目標など、ていねいに話し、保護者の同意を得て、支援していきたい。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングなどは実施していない。リハビリの課題など、分かりやすくまとめて伝えたり、ビデオを渡したりして、取り組みやすい状況をつくっている。	「できている」6割 「いいえ」0,5割 「わからない」2割 「どちらともいえない」0,5割 無回答 1割 の回答だった。	テーマに応じて希望者を募ってグループで研修するなど機会があれば取り組みたいと考えている。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	日々の様子を個人日誌やラインで伝えたり、送迎時に子どもの様子や、困っていることなど家庭からお聞きして、共通理解を積み上げている。	全員の方が「はい」と回答された。「日頃から、細やかな報告をしてもらっている。」「リハビリの時のまとめや、ビデオがとても助かっている」という意見をいただいている。	今後も、子どものことをていねいにお伝えしていき、いつでも話ができるように時間を工夫して、共通理解が持てるように努める。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者が何でも相談できるように、日頃から気をつけている。また、相談があれば、可能な限り迅速に対応するようにしている。	「はい」7割 「どちらともいえない」2割 「わからない」1割の回答だった。「いろいろ相談させてもらって、アドバイスをもらっている」という意見があった。	保護者の悩みや相談に適切に対応できるようにする。保護者にその旨伝えて、気軽に相談してもらえるように努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
明責・連携支援	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会が必要かどうか、皆さんにアンケートをとった結果、必要な意見が多かったので、保護者会は作らなかった。テーマに応じて、集まるような会は必要に応じて持つ予定である。	「はい」4割 「どちらともいえない」1割 「いいえ」1割 「わからない」4割の回答だった。「色々な要望について、聞いてもらい対応してもらっている」という意見があった。	保護者会は作らないが、テーマに応じた研修会や、お話し会は持って行きたいと考えている。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情ももちろんであるが、改善を沢山お聞きしたいと伝えている。一つ一つ、対応しているつもりだが、もっと、改善して欲しいことをお聞きし、より、利用しやすい事業所にしていきたい。	「はい」9割 「わからからない」1割 「苦情がないので分からない」という意見があった。	苦情も、改善も気軽に言える事業所であるよう努める。保護者の思いをお聞きしたら、迅速に誠実に対応するよう努める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子ども達が楽に過ごせるための姿勢管理を行い、小さな反応であるが伝えようとしていることを受け止める。彼らが自身で様々な刺激から、好む刺激を選ぶ、など丁寧に関り、少しでも理解していきたい。それを保護者とともに、共有していきたい。	全員が「はい」と回答された。「電話、連絡ノート、ラインなどで、細やかな所まで連絡があり、助かっている」という意見があった。	引き続き、子ども達の意思を受け止めることができるように研鑽していく。子供たちとの、情報伝達ができるように、必要な機器をそろえていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	不定期に、つむぎからの願いは出しているが、お便りは出せていない。ホームページにできるだけ載せて活動の様子がわかるようにし、個々の活動内容は、ラインで活動の写真を送っている。	全員の方が「はい」と回答された。「お便り、ホームページ、ラインで情報をいただいています、利用の少ない時は、郵送もしていただき嬉しいです」という意見があった。	日々の保護者への連絡体制は、主にラインを使っているが、情報を確実に受け取る必要がある時はに書面で伝えるようにする。分かりにくい場合は、個々に丁寧に対応する。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報取り扱いマニュアルに基づき、利用者や家族等の情報の扱いに十分注意している。	ほとんどの方から、「はい」の評価をいただいた。「どちらともいえない」1名「わからない」1名の回答だった。	個々に個人情報許可書を出していただき、個人情報には充分注意をしている。しかし、個人情報の範囲について、もっと職員間で確認する必要がある。
1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急マニュアル、感染症対応マニュアルは有るが保護者に周知できていない。	「できている」7割、「わからない」3割の回答だった。「マニュアルがあれば、ホームページに載せてください」という意見をいただいた。	保護者にマニュアルを提示します。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	火災、地震を想定した訓練は年2回行っている。実施後、振り返りをして、改善している。また、救急時の対応についても実際のケースを想定して、救急車を呼ぶなど訓練している。AEDの研修も受けた。	「できている」6割、「わからない」4割の回答だった。「非常時の送迎など、引き渡しの訓練や、ガイドラインを作って欲しいです」という意見をいただいた。	保護者に非常災害時の訓練について報告し、職員と保護者間で非常時の対応を共有し、子どもの安全確保に努める。
	3 虐待を防止するための職員研修の確保等の適切な対応	全職員が虐待防止のための研修を受講した。		研修を受けたままになっているのでグループワークを通して、日々の中で職員の関わりや人権意識などを確認する。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	やむを得ず、身体拘束を行う場合については今のところ想定できないが、必要なケースが出てきた場合は、組織的に決定し、子供や保護者に十分な説明、了解を得たうえで、個別支援計画に記載する。		やむを得ず、身体拘束を行う場合は、組織的に決定し、子どもや保護者に説明し、了承を得たうえで、支援計画に記載するようにする。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	医師の指示書に基づき適切な対応とともに、保護者からの聞き取りをていねいにしてアレルギー表を作り、適切に対応していく。		引き続き、食物アレルギーだけでなく食事の時の、あらゆるリスクを確認しながら、適切な支援ができるように、職員間で確認する。また、研修をうけ、食事介助の資を上げるよう努める。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの事例が発生した場合は、会議で原因分析と改善策を検討し、報告書を提出する。報告書は全職員に回覧し、事実を共有し、事故防止に努めている。また、保護者に速やかに報告する。		事故を防止するという意識をもって、ヒヤリハットを自主的に速やかに報告し、原因を突き止め、同じことが起こらないように努め職員間で共有する。